資料2

（案）

# 『蒼柴垣神事民俗文化財調査報告書』執筆要項

令和　年　月　日
松江市文化財課

## 一、判型・版面

判　型：A4判（縦二九七×横二一〇㎜）
　本文縦組二段、一段三六字×二七行（一頁九七二字）。
　資料編縦組三段、一段一九字×二九行（一頁一六五三字）。
本文版面：縦二五七×横一五八㎜、キャプション込み。
キャプション：図の場合は下、表の場合は上、図1、表1のように表記。
本文活字：MS明朝、本文一〇．五ポイント、本文括弧内および註は一〇ポイント。
　資料編本文八ポイント。
提出データ形式：マイクロソフトWord文書（拡張子docx）

## 二、本文について

・章、節、項に分け、項は「一」「二」など漢数字で見出しを付ける。項をさらに分ける場合には、「（一）」「（二）」など漢数字に括弧を付けて見出しを付ける。それ以下に分ける場合には「①」、「②」などとして見出しを付ける。項と項の間は一行空ける。
・文体は、常体とする。
・漢字表記は、固有名詞や史料など、やむを得ない場合を除き、JIS第2水準までの字体を用いることを原則とする。
・民俗語彙は原則としてカタカナで表音を示し、必要に応じて初出の際に（ ）内に該当する漢字または一般称を付す。
　例　トウヤ（當屋）
・一般語の送りがな表記は、基本的に『広辞苑』に倣うが、学会で名詞として一般化している用語の場合はその限りではない。
・数字は原則として漢数字を用い、引用文以外は「十」「百」「千」等を用いない。
　例　五〇戸、一二三名
・年月日の表記には十を含み表記し、年号は、「明治二十二年（一八八九）年」のように、「元号、漢数字、年（西暦）」のかたちで表記する。元年の場合は、「慶長元年」と表記し、「慶長1年」とはしない。西暦表記は大正以前について行い、昭和・平成・令和についてはこれを省く。
　例　明治二十二年（一八八九）年十二月十三日
・年号に幅がある場合は、「慶長十八年~元和五年（一六一三~一六一九）」のように表記する。また、「（元号）年間」の場合の西暦は、「慶長年間（一五九六~一六一五）」のように、改元年（一六一五年=慶長二十年は七月十三日に改元して元和元年となる）を含めて表記する。
・距離や長さの単位表記は㎜、㎝、m、㎞、重さの単位表記はg、㎏とする。
・度量衡は、実際に用いられた単位、または聞き取りした単位で表記する。
・接続詞や副詞は、原則的にひらがな表記とする。
・「おこなう」、「おこなった」は「行う」、「行った」とする。
・「~」と「―」の記号は、「~」が数の幅を示し（たとえば三五~五〇㎝）、「―」は区間を示す（たとえば、松江―米子）場合に用いることとする。
・（ ）が重複する場合は、内側の（ ）を省略する手段で対処する。
例：長谷寺本堂（奈良県桜井市、慶安三年（一六五〇））
　→　長谷寺本堂（奈良県桜井市、慶安三年=一六五〇）　「=」を用いる。
　・・・（前掲註2）参照）　→　・・・（前掲註2参照）　註2）の ）を省略。
・斜め方向の方位表記については、
　A．ある地点を基準に、そこからの方向を示す場合には、「北東」、「南西」

のように、「北」「南」を先頭にして表記する。（例：北東の風。南東から北西に向かって）（to the south of …のような用例）

B．ある一定の範囲内のどこにあたるかを示す場合は、「東北」「西南」のように、「東」「西」を先頭にして表記する。（例：東北地方。西南日本。建物東南隅）（in the south of …のような用例）

## 三、写真および図版について

・写真の使用・撮影に関しては、肖像権や著作権に配慮して使用・撮影すること。

・写真、図版は、本文中の挿入箇所に軽容量のデータを配置もしくはテキストボックス等で指示をし、別途データを提出すること。

## 四、註について

・註は各節の末尾に置く形式とし、本文との間は一行分を空ける。

・註や引用文献は本文よりも一字下げる。

・註の表記は、本文末に「註1」とする。註では数字のみ「1」のようにし、一行目の行頭は二行目以下の行頭よりも一字下げる。

・註も一つのセンテンスと見なし、文献を引用する場合も、末尾には句点「。」をつける。

・単行本・報告書の場合は、著者・編者（出版年）『書名』出版発行社（著者・編者と異なる場合のみ）の順

　例：和歌森太郎（一九五五）『美保神社の研究』弘文堂。

・論文の場合は、著者（出版年）「論文名」『掲載雑誌名、掲載書名』巻号（雑誌の場合のみ）、発行者（掲載書の場合のみ）。の順。

　例：横山直正（二〇二一）「美保神社の青柴垣神事・諸手船神事」『島根の祭りと民俗芸能』いづも財団・出雲大社御遷宮奉賛会。

・雑誌の巻号は第、巻、号、期などの漢字は省略、第〇巻第〇号の場合、〇―〇で表示。

　例：和歌森太郎（一九四七）「美保神社の一年神主」『民間伝承』一一―四。

## 五、表記ゆれについて（要検討）

・現地の表記を優先する。

・以降は現段階で表記のゆれそうなものを候補として挙げています。

・「↓」は『松江市史　別編2民俗』で採用されたものを示しています。

・「☆」は美保神社ホームページで採用されたものを示しています。

動物

動植物はカタカナ表記を基本とする？

・アジ　鯵　↓アジ

・イカ　烏賊　↓イカ

　※イカコンブ　イカ、コンブ　イカ・コンブ　↓イカ・コンブ

　※※スルメ　鯣　↓スルメ

・イヌ　犬　☆犬

・ウサギ　兎　うさぎ　↓ウサギ　☆兎

・カメ　亀　↓亀　☆亀

・サル　猿

・タイ　鯛　↓タイ

・チョウ　蝶

・ツル　鶴　↓鶴　☆鶴

・ブト　蚋　↓ブト

・ブリ　鰤　↓ブリ

・ミミズ　みみず　蚯蚓　↓ミミズ

植物

・アズキ　小豆　↓小豆

・イネ　稲　↓稲　※イナワラ　稲藁　稲わら

・カズラ　葛
・クリ　栗　→栗
・ゴボウ　牛蒡　→ゴボウ
・ゴマ　胡麻
・コンブ　昆布　→コンブ
・サカキ　榊　→榊
・ザクロ　ざくろ　柘榴
・サトイモ　里芋　→サトイモ　里芋
・シイ　椎
・シイタケ　椎茸　→椎茸
・ショウブ　菖蒲　→ショウブ
・ダイコン　大根　→大根
　※ダイコンナマス　→大根なます
　※ミソダイコン　→味噌大根
・ダイズ　大豆　→大豆
・タケ　竹　→竹
・タケノコ　筍　→筍
・トコロ　野老　トコロ芋　→トコロ（野老）　☆野老
・フジ　藤
・ホウレンソウ　ほうれん草　法蓮草　→ホウレンソウ
・ミカン　みかん　蜜柑　→蜜柑　ミカン
・モチゴメ　糯米　もち米　→糯米　もち米
・モモ　桃
・ヤマモモ　山桃　楊梅
・ヨモギ　よもぎ　蓬　艾→ヨモギ　※ヨモギモチ　→よもぎ餅　ヨモギ餅
・ワカメ　和布　若布　→ワカメ
・ワラ　わら　藁　→藁　ワラ

## 民俗語彙等

※民俗語彙は原則としてカタカナで表音を示し、必要に応じて初出の際に（ ）内に該当する漢字または一般名称を付す。
　例　トウヤ（當屋）
・アオフシガキシンジ　報告書のタイトルでは「蒼柴垣神事」を使い、本文中では「青柴垣神事」を使う
・トウヤ　當屋　当屋　頭屋　頭家　→當屋（頭屋）　☆當屋
※トウヤ組織　當屋組織、頭屋組織　※青柴垣神事の組織は「當屋組織」と表記し、一般名称としては「頭屋組織」として表記する？
※トウスジ　頭筋　當筋　→頭筋
※トウニン　頭人　當人　当人　一年神主　→頭人（一年神主）　☆頭人
※トウニンミヤ　頭人宮　→頭人宮
※イチノトウヤ／ニノトウヤ　イチノトウ／ニノトウ　一ノ當屋／二ノ當屋　一の當屋／二の當屋　一の頭屋／二の頭屋　一の頭家／二の頭家　一の頭屋神主／二の頭屋神主　一ノ當／二ノ當　一の當／二の當　一ノ頭／二ノ頭　一の頭／二の頭
　→一の當屋／二の當屋　☆一ノ當／二ノ當
※マロドトウ　マロトド　マルトトウ　客人當　客人頭　→客人當（頭）　☆客人當
・ジョウガン　上官　上番　→上官　☆上官
・ジュンガン　準官　準番　神官　→準官　☆準官
・オンド　小忌人　→小忌人
・トモド　供人　→供人
・タッシャ　当知　当為知　達者　→當為知　☆當為知
・ササラ　ささら　編木　→ササラ
・アヤガサ　綾笠　あや笠　→あや笠

・イスズバコ　イスズ箱　斎錫箱　↓イスズ箱
・イモゼン　芋膳　いも膳　イモ膳　↓芋膳
・ウワバ　上羽　↓上羽
・オオタツ　大辰　大竜　大龍
　※リュウノヒゲ　龍のヒゲ　龍のひげ　龍の髭　↓龍のヒゲ
・オオダナ　大棚　御棚　↓大棚　☆御棚
・カラビツ　唐櫃　辛櫃　↓唐櫃
・カワラケ　土器　かわらけ　↓カワラケ
・サンポウ　三方　三宝
・シオカキ　潮かき　潮掻き　↓潮カキ　☆潮掻き
・シオダイ　塩鯛
・シトギ　粢　↓粢
・シメナワ　しめ縄　注連縄　七五三縄　↓注連縄
　※オシメカケ　シメカケ　・オ　お　御
　　・シメ　しめ　注連　七五三
　　・カケ　かけ　掛け　掛　懸け　懸　↓注連懸け
・セイロ　蒸篭　蒸籠　せいろ
・セック　節句　節供　↓節句
・チョウケイ　蝶形　蝶啓　長形　↓蝶形
・サカズキ　盃　杯
・トリツクリ／トリアゲ　↓酉造り／酉揚げ　☆鳥造／鳥揚
・ナマス　膾　なます　鱠　↓なます　※ニナマス　煮なます　↓煮なます
・マナイタ　まな板　俎板　↓俎板
・マッカ　真劔　↓マッカ
・ミキ　神酒　御酒　↓神酒
・ミクジ　みくじ　神籤　御籤　↓神籤　☆みくじ
　※クジ　くじ　籤
　※チュウセン　抽選　抽籤　抽せん
・ミコ　巫女　巫子　↓巫女　☆巫女
・モチツキ　餅つき　餅搗き　↓餅搗き　☆餅搗き
　※モチをツク　餅を搗く　餅をつく　↓　餅を搗く
・ヤクモイタ　カガミイタ　八雲板　鏡板

神名

・アメノウズメノミコト　天鈿女命　↓アメノウズメ　☆鈿女
・エビス　えびす　↓エビス
・コトシロヌシノミコト　事代主命　↓コトシロヌシ　☆事代主神
・サルタヒコノミコト　猿田彦命　↓サルタヒコ　☆猿田彦
・ミホツヒメノミコト　三穂津姫命　美穂津姫命　↓ミホツヒメ　☆三穂津姫命